

つくば小児アレルギー情報ネットワーク

アレルギー専門医の少ないつくば保健医療圏で、携帯・スマホ、タブレットなどのITツールを介して「地域の医療機関」と「患者・保護者」が一体となって疾病のコントロールを行う、初めての地域医療連携ネットワーク。

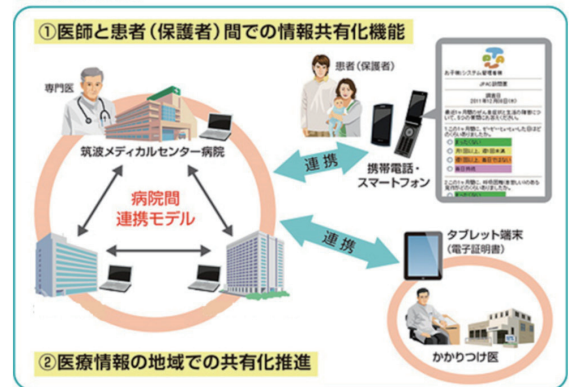
背景

つくば保健医療圏(常総市、つくば市、つくばみらい市)では、アレルギー専門医が少なく、小児アレルギー疾患を基幹病院の専門医と地域の診療所のかかりつけ医で協働して診療する必要があった。アレルギー患者は年齢が進むにつれて様々なアレルギー疾患を発症する確率が高く、専門医とかかりつけ医・保護者による長期間にわたる疾患管理も求められる。そこで、使い勝手に問題のあった従来の健康手帳(紙)に代わる連携ツールとして、「つくば小児アレルギー情報ネットワーク」(Tsukuba Pediatric Allergy information Network=T-PAN)の構築、運用に至った。

概要

- T-PANでは、患者・保護者が携帯やスマホから日々の健康状態や食物アレルギーに関わる食事メモなどを入力。送られた情報や医療データ(血液検査結果、処方・注射情報など)は、筑波メディカルセンター病院内の開示用サーバにて蓄積・管理され、専門医とかかりつけ医がセキュリティを確保したインターネット経由で閲覧することができる(各情報はカレンダー形式やグラフなどで表示され、簡便にそして迅速に状態が把握しやすい)。
- また簡単な質問に答えるだけで、1カ月の喘息の状態を点数化して客観的に知ることができるJPAC(Japanese Pediatric Asthma Control Program)という評価基準も利用可能。
- 患者・保護者の入力の手間を省き、確実に送信してもらうために、携帯やスマホなどにリマインドメールを送信し、設問に対して選択項目を選ぶ方式を採用するなど、使い勝手にも工夫している。

● 情報共有の概念図



アピールポイント

- T-PANは他の地域医療連携ネットワークで行われている病診連携に「疾病管理」の要素をプラスしたもので、患者・保護者が携帯やスマホなどで日常の発作などの状態を入力することで、「地域の医療機関」と「患者・保護者」が一体となって疾病コントロールができる初めての地域医療連携ネットワークである。
- ベースとなる診療情報共有のICT基盤には、NECの地域医療情報連携ネットワークサービス「ID-Link」を採用。将来の診療科の拡張やネットワーク拡大にも十分対応可能。
- T-PANを運用した医療連携により、基幹病院の専門医が記載した診療情報などを、専門医・かかりつけ医が共有できるようになり、疾病管理の向上につながった。
- 携帯やスマホなどで日々の健康情報を記録できるようになったことが、患者や保護者が自ら治療に積極的に取り組む“アドヒアランス”の向上に寄与している。
- 母親が携帯やスマホ世代なので、毎日の気づきメモの記入率や記述量が従来の健康手帳のときよりも増加するなど、積極的に治療に取り組む意識を高めるのに寄与。患者の保護者からは、通院の励みができたなどの声も聞かれる。



Key Person

公益財団法人筑波メディカルセンター業務執行理事・筑波メディカルセンター病院長・軸屋智昭氏、同病院小児科診療部長・市川邦男氏、同病院事務部部長・中山和則氏が、ICTを活用した地域医療連携に尽力した。NECサイドでは、医療ソリューション事業部の岡田真一氏、田中正人氏が対応に当たった。



軸屋 智昭 氏



市川 邦男 氏



中山 和則 氏

日本電気株式会社 医療ソリューション事業部 事業推進部

〒108-8001 東京都港区芝5-7-1 Tel.03-3798-6756/Fax.03-3798-6252/e-mail: necidlink@med.jp.nec.com

■従業員数: 単独24,237名 連結100,914名 (2014/3/末現在)